

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	総合政策研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 本研究科が目指す教育目標、求める院生像を2010年度中に検討し、明確にする。	→大学院の教育目標（ミッション）の具体的な明示の有無。	B
2. 現在の「アカデミックコース」と「プロフェッショナルコース」の2コース制のあり方を2010年度中に見直す。	→2コース制の見直しの有無。	A
3. 本研究科の中での英語履修コース（国際開発戦略コース）の位置づけと教育目標を2010年度中に検討し、明確にする。	→英語履修コースの教育目標の明示化とカリキュラムの見直しの有無。	A
4. 博士前期課程と博士後期課程がそれぞれ目指す教育目標を2010年度中に検討し、明確にする。	→前期課程と後期課程それぞれの教育目標の明示化と、教育内容への反映の有無。	C
5. 文科系・理科系という学際的な本研究科の特徴、総合政策的な教育・研究方法の意味を2010年度中に検討し、次項（6.2）で述べる2011年度からの教育・カリキュラム体系の再編成に反映させる。	→学際性を活かした教育スタイルの、カリキュラムや教育内容への反映の有無。	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

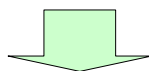
### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	小項目6.1.1	(方針) (現状説明) 上記の評価項目に即した形での十分な明示はなされていない。
☆	小項目6.1.2	(現状説明) スタディ・インフォメーションに明示している。
☆	小項目6.1.3	(現状説明) 教育目標、教育課程の編成・実施方針をスタディ・インフォメーションに記載し、構成員に周知している。また、ホームページに教育目標を記載し、社会に公表している。
☆	小項目6.1.4	(現状説明) 大学院カリキュラム検討委員会において検討を行っている。
☆	その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
☆ 小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	



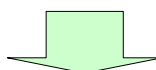
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
☆ 小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
☆ 小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
☆ 小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

- 教育の要である「教育目標」等の明示が遅れていることについては、喫緊の対応が必要です。研究科としての説明責任を果たすためにも「教育目標」等を早急に明示・公表することが望まれます。
- その他の小項目は順調に対応がなされています。

【学内委員】

- 研究科が目指す教育目標、求められる院生像はできるだけ早く明確にすべきです。ただ、さまざまな目標をもつ多様な学生を受け入れることになると思われるので、そのような一様でない学生の指導体制をいかに構築するかということが困難な問題でしょう。
- 現在検討をしていることは評価できます。

**IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述**

★ なし

**V. 本項目の評価指標**

## &lt;全学的な指標&gt;

6.1.0.S1	カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
6.1.0.S2	MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
6.1.0.S3	ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
6.1.0.S4	専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの授業科目開設数
6.1.0.S5	必修・選択ごとの開設授業科目数
6.1.0.S6	系列別卒業必要単位数

## &lt;個別的な指標&gt;
